

& Seig

No.
59
Jun.2021

巻頭特集
社会貢献・ボランティア



巻頭座談会
女子聖学院中学校・高等学校PTA
パパプロ

各校・各園卒業生インタビュー
歩む人たち

- 理事長メッセージ
- 新任教職員の紹介



CONTENTS

巻頭特集

01_ 社会貢献・ボランティア

[座談会]
保護者が学校運営に貢献すること

03_ &Talk

女子聖学院中学校・高等学校PTA ババプロ

各校・各園卒業生インタビュー

07_ 歩む人たち

- 07_ 聖学院みどり幼稚園
- 08_ 聖学院幼稚園
- 09_ 聖学院小学校
- 10_ 女子聖学院中学校・高等学校
- 11_ 聖学院中学校・高等学校
- 12_ 聖学院大学

中長期計画と今後の展望

13_ 理事長メッセージ

- 15_ 新任教職員の紹介
- 17_ ASF事務局からのご報告
- 18_ SDGsバッジ プレゼントのお知らせ
- 19_ リニューアルのお知らせ
- 20_ Seig NEWS

120年の轍を歩む

31_ 聖学院歴史探訪 [EPISODE #13]



聖学院ニュースレターアンケート

QRコードからあなたの声をきかせてください。
アンケートに回答いただいた方の中から抽選で10名様に「聖学院オリジナルキーホルダー」をプレゼント!

- 有効回答期間
2021年6月28日～8月31日

- 当選発表
当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



本アンケートに関するお問い合わせ
聖学院広報センター Tel 03-3917-8530

社会貢献 ボランティア



活動にあてる方、行政、NPO法人、福祉施設などに勤め、他者貢献・社会貢献をライフワークの中心に据えている方もいます。そういう生き方が他の選択肢と並列にあるというのは聖学院の卒業生ならではかもしれません。さらに発達段階を問わず保護者が家族ぐるみで学校に関わってくださるのも聖学院の誇れる特徴です。学校行事やPTA、同窓会。参加するだけではなく運営まで手伝つてくださる方も多いです。

ボランティアの語源はラテン語の「voluntas」と言われています。「自由意志・自ら進んでやること」という意味です。ボランティアというと「無償の奉仕」というイメージがありますが、有償無償に関わらず他者貢献・社会貢献を自らの意思である行為がボランティアということになります。

聖学院では学院を通じて様々なボランティア活動に取り組んでいます。主に大学で盛んな東北の復興支援ボランティアや、聖学院中高、女子聖学院中高が合同で推進するバラスポーツ応援プロジェクト、小学校、幼稚園でも行事に他者貢献の目線が取り入れられています。

また、ボランティアへの関心の高さは在校生だけにとどまりません。卒業してからもプライベートな時間をボランティア

&Talk

卷頭特集 社会貢献・ボランティア

「娘たちの笑顔のために」という思いから
学校運営をサポートする父親中心の団体・パパプロ※。
その思いはご自身のご息女だけではなく、
全生徒、学校全体のためにと次第に広がっていきます。

※パパプロ=「パパも女子聖、土曜プログラム」の略称





岡村 直樹

1969年1月東京生まれ。女子聖学院中学校・高等学校保健体育科主任、運動会総務、記念祭総務、PTA事業部顧問、「パパプロ」顧問。聖学院中学校・高等学校卒業。専門は剣道と健康科学。日頃から生徒達に伝えていることは「経験は財産」。趣味は古代ローマの研究と書道。



清水 陽介

娘は現在、女子聖学院高校2年生在学中。活動5年目の今年度よりパパプロ代表を務める。人材系企業にて法人の採用・個人の就業に携わる。一番の趣味はパパプロ活動。強みは力仕事と仕組み作り。伝統を継承しつつ、新しい試み・進化に挑戦する。



茂木 伸智

娘は現在、女子聖学院中学2年生在学中。昨年、娘が入学後まもなくパパプロ活動に参加。昨年、パパプロナイトや入試体験会にて保護者講話を経験。現職は金融機関勤務。趣味は書道、神輿担ぎ、自治会の役員(防災担当)。

女子聖学院中学校・高等学校(以下女
子聖学院中高)にはPTAの一団体と
してパパプロと呼ばれる父親中心の組
織があります。持ち回りではなく皆さ
ん自分の意思で参加されています。学
校行事等の運営をサポートし、また高
校3年生を激励する焼き芋会などパパ
プロ独自の企画もあります。パパプロ
は、参加されているお父さんたちの奉
仕の精神がとても高い団体です。

パパプロはどういう組織で、仕事
が多忙を極める時期になぜ自ら進んで
そこまで活動できるのか、パパプロ代
表の清水陽介さん、メンバーの茂木伸
智さん、女子聖学院中高の教員から
は、仕事を担当してパパプロに関わり
の深い岡村直樹先生にお集まりいただ
きお話を伺いました。

パパプロの成り立ち 「娘たちの笑顔のために」

清水 パパプロとは、どのような組織で
すか?

清水 パパプロは、PTAに複数ある
組織のなかの公認団体です。ちょうど
来年で、20周年を迎えます。いわゆる
縁の下の力持ちとして、学校・PTA
の行事の運営サポートや独自の企画を行
っています。「娘たちの笑顔のため
に」をモットーに、仕事を抱えながら
活動するお父さんを中心としたボラン
ティア集団で、学校や娘たちに対して
どうしたらより良い環境を提供できる

のか、メンバー自身が主体的に考えて
試行錯誤しながら形にしています。具
体的には、説明会や夏の女子聖体験日
にお越しいただいた受験生との保護
者の方たちの誘導や安全性の確保、運
動会の設営、誘導、警備。また記念祭
で模擬店の出店などがあります。

元々はPTA総務部の方が、記念祭で
後片付けを手伝っていたお父さんたちに
呼びかけ活動の基盤ができました。それ
から自主的な活動が徐々に認知され、6
年前に公認組織になりました。成り立ち
からボランティア団体です。

岡村 パパプロの起ち上げに関係した
先生の話では、女子聖学院中高の行事
で、力仕事なら手伝っていけるのでは
ないか、ということで始められたそう
です。

「娘のために」「から」「学校のため
に」へと変わっていく
教員の日々の努力に触れ、学校
自体を応援したくなる

——お二人が、パパプロの活動を始め
たきっかけを教えて下さい。

茂木 私の場合は、入学前の学校説明
会でパパプロの存在は知っていました。
ただ娘の小学校在校時に、パパプロに
似た「親父の会」というグループに参加
していた経験から、力仕事中心のイ
メージを持っていて、これといって興
味を持ちませんでした。正直、入学前
は仕事の多忙を考慮し、中高6年間は

もういいか、という気持ちでした。と
ころが去年コロナ禍で入学式が6月に
なり、娘と色々な思いを抱えながら初
登校した時に、パパプロの皆さんが緑
のジャンパーを着てコロナ禍にも関わ
らず、忙しい時間を割いてあたたかく
迎えてくださいました。その姿を見
て、そこまで学校のために尽くしていく
のかと感激し同時に尊敬しました。

パパプロには、力仕事だけではな
く、様々な企画があつて、娘のため
に、色々なことを考えながら楽しく活
動しています。その姿勢に賛同し参加
しました。

清水 私も娘の幼稚園、小学校と行事
の片付けを手伝っていました。女子聖
学院中高に入った当時はパパプロの存
在を知らなかつたのですが、妻に面白
そうなのがあるよ、とチラシを渡され
たのがきっかけで知りました。

入会の理由は、自分の年齢的にも仕
事が多忙を極める時期だからこそ、娘
との関わりをしっかりと持ちたいという
思いと、娘がお世話になる学校、友だ
ちや先生に興味があつたからです。当
時は「娘のために」という気持ちからス
タートしました。「娘と自分のために」
かもしれません。

娘の成長に合わせて、「娘のために」
が、中学3年生くらいから「娘たちの
ために」へ変わり、もう少しおつて「学
校のために」という思いになつていき
ました。さらに「コロナ禍で、「先生た
ちのために」できることはないか、と

考えるようになりました。

茂木 去年、受験生のための保護者説明会で講話する機会をいただきました。自分が話す意義を考えると、やはり保護者から見た学校の魅力という点に行き着きます。そういうことを考えていくうちに徐々に「娘のために」だけではなく「学校のために」という視点も生まれてきた気がします。

岡村 昨年は学校説明会で、広報の担当とパパプロさんとの対談をライブ配信したこともあります。広報面でもパパプロさんは本当にお世話になっています。本校では保護者の方々の学校への関心が非常に高いです。パパプロはもちろんのこと、女子聖学院中高のPTA活動は、ボランティア精神を絵に描いたような組織で、学校側としてもとても助かっています。

——「学校のために」と思える理由はなんですか？

清水 なんででしょうね？

一同 (笑)

女子聖学院中高は子どもたちの自主性をとても尊重してくれます。しかし、自主性は、一歩間違えると放任になりがちです。女子聖学院中高の先生方は、ギリギリまで我慢して、生徒に決めさせて見守っています。その上で、ちょっとおかしいときは、上手く修正してください。新型コロナウイルス対策においても、皆さんの安全のために、生徒の帰宅後に消毒作業をされ

たり、様々に尽力されます。それでも生徒の前では、疲れを見せず笑うよう正在していると耳にしました。そういう姿を見たりお話を伺うと、我々も先生に何かできないか、学校に対し何ができるのか、という思いになります。パパプロをやつていなかつたら学校に足を運んでおらず、そこにも気付かなかつたなと思います。

岡村 ありがとうございます。学校行事は、生徒主体で行うのが本校の特徴ですが、清水さんの仰る通り、必ず生徒が結論を出すところまでつきあいます。実際に去年の記念祭も、生徒たちがやると決めました。その決断で学校サイドも腹をくくりました。学校だけではなくパパプロさんやPTAの皆さんも生徒の結論を尊重し、支援してくださいましたことで開催できました。生徒のやる気と保護者の支えがなかつたら、実現しなかつたと思います。

その際も、警備やテントの設営などパパプロさんから自発的に声をかけていただき、大変助かりました。

OBの方々が築いてきたパパプロと学校の関係

——パパプロと教員の心の距離が近いですね。

清水 おこがましいですが(笑)。見ている方向性が一緒のよう思っています。我々に一番求められることと先生方が腐心されることは、娘たちの安

心と安全の確保と彼女たちができない裏方の仕事です。その点において我々と先生たちの間で大きなズレはない感じています。そのためパパプロ側から提案しやすいところもあります。

茂木 パパプロは歴史も長く、かつOBの方が積極的に参加してくださるので、これまでに築いた学校との関係性が途切れません。そこがすごいところです。

清水 他のPTAの組織と異なり(他の組織は任期が1年)、パパプロは入った本人が辞めるまで会員です。現役のお父さんは約30名ですが、登録しているOBを含めると約90名になります。

OBの方の参加頻度は下がって行きますが、熱心な方も多く、マインドや伝統は、しっかりと受け継がれています。**茂木** パパプロでは、独自の企画として高校3年生の激励のために「焼き芋会」をやっています。また中学3年生の七夕で、3年後の自分にメッセージを書くイベントもやっています。この2つのイベントは運動していく、七夕で書いたメッセージを3年後の「焼き芋会」の時に焼き芋と一緒に渡しています。そういう企画を学校が了承してくださるから、私たちもパパプロの活動を楽しめますし、より「学校のため」と思うようになります。これはOBの方たちがこれまでに築いてくださった学校との信頼関係があつてこそだと思います。

岡村 一般的に、保護者の学校への関



(上) パパプロのスタッフジャンパーを着る清水さんと茂木さん。茂木さんは昨年、コロナ禍で入学式が6月になり、不安を抱えながら親子で登校した朝、このジャンパーを着たパパプロの人たちのお祝いと声援に感動し、パパプロ参加を決めたと言います。

(右) 左から茂木さん、清水さん、岡村先生。皆さんパパプロについて笑顔でお話し下さいました。



モミの木プロジェクト
生徒を、先生を明るくしたい」

ショーンを点けました。そうしたら生徒たちがとても喜んでモミの木に駆け寄つて行つたんです。それが私たちにとっては冥利につきる最高の瞬間でした。皆さん、涙しました。

茂木 パパプロに入つてまだ1年足らずの私がこういう企画に参加できたのは非常に光栄でした。長い人生においてもそうはない非常に良い経験をさせていただいていると思いました。とても温かい活動です。

一生徒を、先生を明るくしたい モミの木プロジェクト

茂木 2020年の「コロナ禍において、学校の行事が次々中止になつていきました。そんな中、子どもたちに何とか明るい気持ちになつてほしいとい

ショーンを点けました。そうしたら生徒たちがとても喜んでモミの木に駆け寄つて行つたんです。それが私たちにとっては冥利につきる最高の瞬間でした。皆さん、涙しました。

茂木 パパプロに入つてまだ1年足らずの私がこういう企画に参加できたのは非常に光栄でした。長い人生においてもそうはない非常に良い経験をさせていただいていると思いました。とても温かい活動です。

ジユールを調整して参加できないだ
うかと思うようになっていきます。
ういう良いサイクルがあります。

茂木 パパプロはやはり奉仕活動だと思います。クラブ活動は自分が主体ですが、パパプロは娘たちのため、学校のためというのが前提で、その「誰かのため」の活動自体が楽しいから参加しています。だから義務感もないですし、むしろ忙しい中でなんとかスケジュールを調整して参加できないだらうかと思うようになります。そういう良いサイクルがあります。

清水 他にはないですよね。

茂木 はい。

(笑)

わりはどうしても義務的なところがあるという話を聞きますが、パパプロさんに関しては義務感を全く感じません。それは非常にありがたいと思っています。それゆえに私もパパプロさんたちと一緒にながら活動できる環境整備を心がけています。

ところでパパプロの活動はご自身の学生時代のクラブ活動とは違つ感覺ですか？

わりはどうしても義務的なところがあるという話を聞きますが、パパプロさ

う思いでモミの木を植樹しました。

今後のパパブロの展望



パ・パ・プロ活動風景



三

「中3七夕企画」（上）中学3年生を対象としたイベント。短冊に3年後の自分へのメッセージを書いて笹に飾ります。「高3激励焼き芋会」（下）受験を控えた高校3年生にエールと一緒に焼き芋を送るイベントです。この2つのイベントは連動していて、七夕企画で書いた短冊を3年後に焼き芋会で焼き芋と一緒に渡します。生徒たちは、パパプロというタイムカプセルから出てきたメッセージを胸に、次のステップへと進んでいきます。

今後のパパプロの展望

茂木 私はパパプロに入ったばかりということもあり、こうしていきたいといふより、私が今経験している素晴らしい活動をしつかり継続、継承していくみたいです。

岡村 盤石なものを継承していくということが一番重要で一番難しいかもしれません。

清水 20年近くかけて築いてきた信頼をしつかり守りながら、一方でボランティア精神に関してはいくらでも高めて良いと思っているので、よく気づく人、気づいたことに対しても考えたり行動できる人たちを増やしていくみたいです。

茂木 私はパパの口に入ったばかりで、いうこともあり、こうしていきたいと、いうより、私が今経験している素晴らしい活動をしつかり継続、継承していくたいです。

「卒業生を尋ねて」

歩む人たち

1

小山 浩史



小山さんたちが幼少期に種を植えたビワの木の前にて撮影。現在では園児たちが収穫を楽しみにする大きな木に成長しました。

地域住民として聖学院を見続け、「自分にもできることは?」と思うようになりました

聖学院みどり幼稚園（以下みどり幼稚園）の卒園生で、同幼稚園の同窓会長と学校法人聖学院の評議員を務める小山浩史さん。生まれてから今日までみどり幼稚園と聖学院大学がある上尾キャンパスのすぐ近くに住んでいます。お子さんもみどり幼稚園に通わっていました。地域住民としても聖学院を身近に感じているそうです。

評議員会では聖学院の各校各園の様々な活動が報告されます。小山さんは中でも聖学院大学の地域貢献活動の報告がとても興味深かったと言います。上尾にある高齢化が進む団地に、聖学院大学の学生が住んで、団地内のコミュニティを立て直すというプロジェクトです。地域の課題に対して自分たちができるを探し関わっていく聖学院らしい取り組みです。「その他のボランティア活動も含め、聖学院は地域に根ざしている印象があります」と小山さんは言います。また防災拠点の役割

●PROFILE

1973（昭和48）年生まれ。1980（昭和55年）女子聖学院短期大学付属みどり幼稚園卒園。小中高と地元の学校に通い、大学では機械工学を専攻する。現在は電子部品メーカーにて企業法務と安全衛生業務に従事している。娘と息子もみどり幼稚園の卒園生。



開園当時のみどり幼稚園。当時はまだ木々がありませんでした。

同窓会や評議員会に無償でご協力いただいている理由について小山さんに尋ねたところ「親子でみどり幼稚園を卒園したこともあり、また地域にもちゃんと目を向けてくれていることへの恩返しといいますか、自然と自分にできることがあるなら協力したいともういう気持ちになります」と教えてくれました。「神を仰ぎ 人に仕う」の精神で40年以上、地域の方々と触れ合ってきたことが、新しい社会貢献・他者貢献の輪として広がっているようです。

1973～現在

聖学院の近隣在住
聖学院の地域貢献を
身近に感じる1980
聖学院みどり幼稚園
卒園

2006

聖学院みどり幼稚園同窓会発足
同窓会長に就任

現在

学校法人聖学院評議員
としても活躍

歩む人たち
2

「卒業生を尋ねて」

（旧姓師岡）
本橋 喜久子



**幼稚園からずっと聖学院に関わり
「人のために」という考えが自然に身につきました**

聖学院幼稚園を卒園し、現在は聖学院幼稚園同窓会長と学校法人聖学院の評議員を務める本橋喜久子さん。小学校と中高も聖学院で過ごし、幼稚園教諭として聖学院幼稚園と聖学院みどり幼稚園に勤務された聖学院にゆかりの深い方です。

となる節目の年に同窓生が集まつて行事を行つています。その際は、同窓会の関係の方々と現役の先生方で企画を出し合ひ、運営をします。同窓会長を引き受けた理由について本橋さんは「聖学院の先生にご指名いただいたので」と控えめに答えます。その一方で「ずっと聖学院だったので、自然と、人のために自分ができること」については良く考えていました」と身についた他者貢献の精神についても語られています。

れる方はいつもとても喜んでくださるそうです。「HULLAは笑顔で踊る方も幸せですし、それを見ているほうも幸せを感じていただけると思うのです。私が喜んでいただけるのならと続けていました」と本橋さん。この言葉からも「人のために」という姿勢が垣間見えられます。

聖学院幼稚園には「桜の日」といって行事があります。本橋さんもよく覚えている行事だそうです。園児がお世話になつていてるお医者さんや消防署などへお花を持って行き感謝を伝えます。同じ行事が聖学院小学校にもあります。こういう日々の積み重ねが自然と「人の役にたてるのであれば」と思ふ本橋さんの姿勢につながっているのかもしれません。

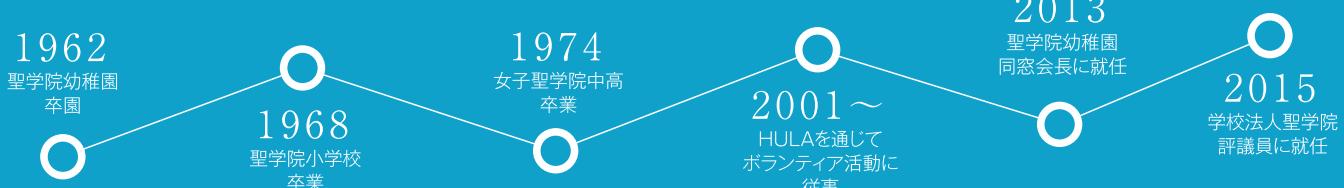
PROFILE

聖学院幼稚園、聖学院小学校、女子聖学院中学校・高等学校、玉川学園女子短期大学保育科を卒業。聖学院幼稚園、聖学院みどり幼稚園、いくつかのキリスト教会幼稚園にて教諭として勤務。現在はHULAのライフやボランティアとして各施設などで踊っている。北区の民生児童委員として活動。

聖学院幼稚園の園長が 代わりました



4月より創立109年目を迎える聖学院幼稚園の第24代園長として田村一秋先生が就任されました。聖学院小学校の教頭も兼任されていて聖学院には長く関わっています。神さまと人から愛されて、よく遊び、よく祈る子どもたちの毎日を見守られています。



歩む人たち

「卒業生を尋ねて」

3

池田 香菜
(旧姓 小島)



与論島、海岸にて。

旅行に行くだけではなく、その地域に何か返したい
その思いがサンゴ礁の保全活動につながりました

田香菜さんは、「NPO法人海の再生ネットワークよろん」でサンゴ礁の保全活動に取り組んでいます。海洋生物の25%が生息すると言われるサンゴ礁が今、衰退しています。その原因の60%が埋め立てや陸域由来の水質悪化等、人為的な影響によるものです。池田さんはサンゴ礁を取り巻く環境の保全と啓発活動を行うことが大切だと言います。

池田さんは大学生の時、インターナンシップで与論島を訪れ、サンゴ礁減少の問題に出会います。元々海で遊んだらゴミは持ち帰り、旅行に行つたらその土地に何か返したいと思つて、いた池田さん。与論島の課題に対しても何かしたいという思いを抱くようになります。環境問題は以前から興味があり、大学で海洋汚染を学んでいたことも加わり、東京で就職という既定路線から方向転換し、サンゴ礁の生態を研究するため琉球大学の大学院に進学。沖縄で

課題は自分たちが解決するという意識を育てられたら嬉しいです」と島の子どもたちへの思いを語ります。島の子どもたちはとても素直で、その分、高校生になると将来の進路選択が「もっとクリエイティブで自由な視点を持つてもらえたら」と話す池田さん。将来、池田さんの授業を受けた子どもの中から島の課題解決に携わる人が出てくるかもしれません。

の活動につながりました

PROFILE

聖学院小学校第41回卒業、女子聖学院中学校・高等学校第64回卒業生。東京農工大学農学部環境自然科学科卒業後、琉球大学大学院理工学研究科にて修士取得。現在、鹿児島県与論島でNPO法人海の再生ネットワークよろんに所属しサンゴ礁を中心とした環境保全活動を行う。



島の小学校で環境教育を行う池田さん。みんな熱心に話を聞いています。





歩む人たち

「卒業生を尋ねて」

4 小島祥美

ありのままの自分を認めることができる
教育環境を実現したい

近年、日本で暮らす外国人は年々増加し、コロナ禍前（2019年末）には過去最多を記録しました。それに伴い外国につながる子どもたちも増え（約12万人）、うち約2万人が教育を受け機会を失っています。その大きな理由として、国が外国籍者を義務教育の対象としないことや自治体ごとで受け入れ態勢が異なることなどがあります。

この問題に取り組んでいたのが、女子聖学院中高卒業生の小島祥美さんです。「聖学院小学校でも女子聖学院中高でも個人が尊重された学校です。在日コリアンの生徒も先生も本名を名乗っていました。自分は自分らしくて良いと私に教えてくれた場所です」と在校当時を振り返ります。小島さんは進学した短大卒業後、埼玉県の公立小学校に勤めます。そこで外国につながる子どもたちに出会います。その子たちの「学校が嫌い」という言葉がとても

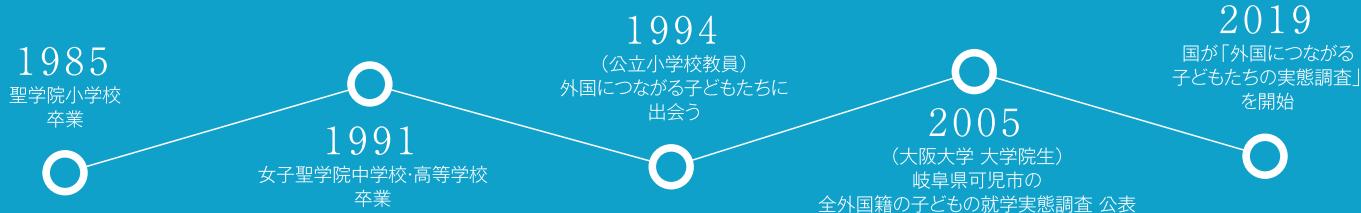
し、外国籍の子どもの就学実態を日本で初めて明らかにしました。そして同市の職員になり、「不就学ゼロ」を実現します。今では小島さんの視点が社会に必要だと認められ、東京外国语大学の「多言語・多文化共生センター長」、文部科学省「外国人児童生徒等教育アドバイザー」に就任されています。

2年前、国が初めて「外国につながる子どもたちの実態調査」を始めました。小島さんの活動がようやく実り始めています。「全国での不就学ゼロが私の目標です」と小島さんは語ります。

ショックだったと言います。この言葉の裏には、制度や体制の問題がありました。「自分が当たり前と思っていた教育環境がこの子たちにはない」この思いが小島さんの活動の原点となります。小島さんは再び大学を受験して言語と国際協力を勉強し、NGO職員などもへて、岐阜県可児市に引っ越しします。そこに暮らす全ての外国籍家庭を訪問



小島さんの編著書。「Q&Aでわかる
外国につながる子どもの就学支援」
(明石書店)。「学校の先生が困った
時に読んでほしい。悩んでるのは一
人じゃないよ、私たちがいるよ、と伝
えたい」と小島さん



「卒業生を尋ねて」

歩む人たち 5 内田 伴之



児童養護施設の存在を知つてほしい それが子どもたちへの支援につながります

埼玉県さいたま市にある児童養護施設「ホザナ園」。そこで施設長を勤めているのが聖学院高等学校卒業生の内田伴之さんです。児童養護施設は、貧困、離婚や虐待など子どもを育てられる環境にない家庭の子どもを児童相談所を介して受け入れている施設です。子どもたちは18歳までここで生活し、その後独立していきます。現在34人の子どもたちがホザナ園に在籍し、内田さんや職員の方達と寝起きを共にしつつ笑つたり時には叱られたりしながら成長しています。

近年、児童養護施設の入所理由の多くは虐待です。そのためホザナ園に来るまで安心して勉強できなかつた子どもなくありません。そういう子どもたちが自分のやりたいことを見つけた時、その夢の実現のために全力で進学のサポートをするのも内田さんたちの役目です。学力に加え、経済的な問題も進学のハードルとなっています。このハードルを少しでも下げるため、ホザナ園で

●PROFILE

児童養護施設ホザナ園施設長。1984(昭和59)年、児童養護施設ホザナ園児童指導員として入職。施設の子ども達と生活を共にしながら職務にあたる。1997(平成9)年より現職。聖学院高等学校第72回卒業。



ホザナ園の外観。ここを家として34人の子どもが生活しています



歩む人たち

「卒業生を尋ねて」

由木
加奈子



自分がしてもらつたように
誰かの背中を押せる人になりたい

由木加奈子さんは在学時、幾度となく釜石を訪問、ボランティア活動やスタッフティアードに勤しむ学生でした。最初は友達に誘われるがままに参加していましたが、次第に主体性が生まれていったそうです。大学4年生の時、由木さんはサービスマーケティングという授業の一環で、釜石の高校生が立ち上げるプロジェクトにサポートとして加わります。当初、現地の高校生は先生に言われたからという姿勢で、あまりモチベーションも高くなかったそうです。由木さんはかつての自分と高校生の姿を重ね合わせ、釜石でのボランティア経験やプロジェクト運営について共に考える時間を大切にしました。するとそこから高校生たちの意識が変わつていき「自分たちも次の世代の未来に貢献したい」と防災講座を開く企画が生まれました。防災講座が実現するまでの半年間、高校生の中に街の担い手としての意識や郷土愛などが生まれ、由木さんはそ

の様子にとても感動したそうです。それと同時に、外の人だからこそできる役割があり、自分はそういう役割に向いていると実感したと言います。

この経験を機に、由木さんは決まっていた内定を辞退し、釜石リージョナルコーディネーター・釜援隊に着任。大学卒業と同時に岩手県釜石市に移住します。「いつも周りに流されて積極的になれないので自分がいたけれど、大学での活動を通して以前よりも自分のことが好きになりました。それを支えてくれた数多くの人がいます。だから今度は自分が誰かの背中を押してあげたい。それができた時にワクワクするし感動します」。釜援隊は最初から3年という活動期間が決まっていて、今年3月に解散しました。しかし由木さんは「まだ何かできることがあるので」と釜石に残ることを決意。次代を担う若い世代への支援を続けていきます。

PROFILE

2018年3月、聖学院大学こども心理学科卒業。2018年4月より金石リージョナルコーディネーター協議会(金援隊)隊員として、復興公営住宅における自治会形成支援に従事。2021年4月より「金石市地域おこし協力隊 地域教育魅力化コーディネーター」に着任。



聖学院大学ボランティアスタディツアードで学生たちと語る由木さん



Chair's message

ご挨拶



学校法人 聖学院

理事長

清水 正之

mission

常に自分のやっていることを自覚し

反省しながら一歩一歩進む

PROFILE

1947年横浜市生まれ。東京大学文学部倫理学科卒業後、同大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程修了。同博士課程単位取得退学。博士（人文科学）。2008年聖学院大学人文学部教授に就任。2015年聖学院大学学長に就任。2017年学校法人聖学院理事長に就任。



中長期計画(SEIG VISION 2018-2023)の詳細は
こちらからご確認いただけます。

昨年度は新型コロナウィルスの影響で社会に様々な変化が起きました。教育の現場も例外ではなく、昨年4月の緊急事態宣言下では子どもたちが学校に行けず、一部オンラインで授業が行われました。学校行事の多くも中止となりました。そのような中、中長期ビジョンにおいては、幸いなことに計画に大きな遅れはなく、むしろどこへ進むべきかよりはっきり見えてきた1年だったと思います。中間報告においてもそれは数字として見て取れますし、私自身の手応えとしてもしっかりと感じ取っています。

中長期ビジョン達成に向けて

中長期ビジョンの根幹である①教育 ②財政 ③施設・設備 ④人材組織 ⑤ＩＣＴ ⑥広報の6つの経営アクションプランでいうと、まず教育においてオンライン授業の導入がとても大きな意味を持つていたと思います。単にテクノロジーの導入ということではなく、今までのやり方では成り立たないオンラインといつものに直面することで、従来の教育がどうであつたかということを省みる良い機会を得ました。これは一つの遺産だと思いますし、この遺産は対面授業にもフィードバックができます。また、大学の研究教育環境の達成度を明確に判断する指標が改めてできたと感じています。上記に限らず数多くの遺産を手にしました。

財政に関しては、入学者数が増えた点を大きく評価しています。特に聖学院中高では従来より30名近く増え、聖学院大学においても定員を超えた600名近い新入生が入学しました。計画に沿つて手をかけてきた結果が着実に実り始めています。施設設備とＩＣＴはオンライン授業への対応のため当然前進しました。特にＩＣＴは元々計画にあつたものの、どう教育に活用するかという課題がより具体的になりました。教職員間でのデジタルコミュニケーションツールの推進も図れました。人材・組織に関しては、昨年度、新任職員への研修体制強化や管理職への試験による昇進制度を導入したことで「育成」の観点がより明確になりました。広報においては、学院全体の広報センターが設置され、各校情報共有が進み、確実に前進して

いると評価しております。

各論としてはこのようになりますが、社会の変化によつて、6つの経営アクションプランが連環しているとよく分かつた1年だったと感じております。これにより、では具体的にどういうゴールが想定できるのか、そのイメージが強く持てました。このことが、冒頭でも述べました進むべき道の明確化にもつながります。

新たなプロジェクトの展開

今年度は、昨年度に得た遺産をさらに発展させるため、色々なプロジェクトや計画が発足しております。駒込キャンパスでは教育デザインプロジェクトをさらに押し進めた教育

デザイン開発センターを、大学においては教育開発センター（現在は準備室）を作つて、全学院を挙げて改めて教育に向き合う試みを始めました。

駒込キャンパスでは元々、聖学院小学校、聖学院中高、女子聖学院中高が個別に「英語教育」「ＳＤＧｓ」「ＩＣＴ」を推進していました。3校が連携した方がより効率的で効果的になると始まつた取り組みが教育デザインプロジェクトです。昨年は各校から意欲ある教員、若い教員が続々と参加し、非常に強い連帯感と達成感のもと、大きな成果を得られました。この成果を引き継ぐ形で今年度より始まつたのが教育デザイン開発センターです。

大学の教育開発センターは、新しい教育手法の研究成果を蓄積し、広く教員間で共有するための機関です。大学では昨年度、社会の変化に対応するべく、教員によって様々な教育手法が模索されました。それを個人の研究として終わらせるのではなく、大学としていかに共有財産にするかが今年の課題です。その課題に取り組むのが教育開発センターです。

さらに今年度は大学の授業改革に着手します。大学の教育理念にどこまで叶っているのか、アドミッション、カリキュラム、ディプロマ、3つのポリシーとの整合性などを鑑み、カリキュラムを再編します。加えて個々の授業が何を目標にし、大学が示している学力のどこに到達するのかを客観的に示す努力をします。今起つてゐる社会の変化の中で、常に自分のやつていることを自覚し反省しながら一步進むということが、個人にも組織にも求められていると思います。私たちも自らを省みる作業を積極的にやつていかなればいけないと思つています。

昨年度に引き続き、地域貢献にも力を入れていきます。聖学院大学は今年5月に川島町をはじめ、埼玉県内8つの市町村と包括協定を結び、公務員の再研修を大学の授業として行います。

社会と人に貢献する人材を

聖学院は幼稚園から大学院まで、他者貢献の精神がとても強いと評価していただることが少なからずあります。

また教員、職員に恵まれたという在学生、保護者の意見もよく耳にします。私はそれを教職員の善意だと思ってます。善意の行為、善意の態度、善意の人が聖学院の至る所に存在する。ただ存在するだけでは組織としての善意にはなりません。聖学院には善意に加えそれを結びつける何かがあります。それが建学の精神だと思います。このような土壤があるからこそ、この一年教職員が協働して、マイナスになつてもおかしくなかつたことをプラスに変えてきたのだと思います。教育デザイン開発センターも教育開発センターも中長期ビジョンも、この土壤の上に成り立つています。聖学院はこれからも「神を仰ぎ 人に仕う」の精神の下、社会に人に貢献できる人材を育成してまいります。

卒業生の皆様におかれましては、各界で活躍されていくこと、敬意を表します。また信念に基づいて、社会や人のためをなす人となることを心から祈っております。あわせて、僭越ながら聖学院で受けた教育を想起し、ぜひ母校に少し関心を向けていただけたら幸いです。聖学院は今、しっかりとした教育のもと、自らを省みつ次のステージへ歩み進んでおります。

皆様のあたたかいご支援に 心より感謝申し上げます

2020年度 ASF募金総額

968件 3億893万4,035円

(2021年3月31日現在)

2020年度はコロナ禍にあって学校教育が大きく変わった1年となりました。ASF(オール聖学院フェローシップ)においても、在校生支援のための緊急特別支援奨学金プロジェクトを実施するなど、新たな取り組みを行ってまいりました。皆様のご支援により、募金目標を達成することができましたこと、心より感謝いたします。

2023年には聖学院創立120周年を迎えます。「神を仰ぎ 人に仕う」キリスト教精神に基づき、将来的世界に貢献する人材を育てる聖学院を、今後ともお支えいただきますようお願い申し上げます。

2020年度募金実績報告詳細と寄付者ご芳名については、ASFホームページにてご紹介しています。こちらをご覧ください



2020年度 ASF募金によって実現したことの一部を紹介します

●教育および施設設備充実

聖学院大学

学内無線LANアクセスポイント更新
図書館4F改装 オンライン授業対応
貸出用モバイルルータ、iPad購入
7号館入口自動ドア設置
チャペル吊天井改修



大学図書館4階
オンライン授業が受講できるよう改修されました

聖学院中高

校内無線LANアクセスポイント増設
グラウンド夜間照明LED化



聖学院中高グラウンド
LED照明が8基設置されました

女子聖学院中高

校内ネットワーク環境更新
教室・体育館・グラウンド照明LED化



女子聖学院中高体育館
照明がLED化されました

●奨学金・緊急特別支援奨学金

聖学院大学

全学生に緊急修学支援金支給
(1人6万円) (支給人数: 2215名)

聖学院中高 女子聖学院中高

奨学金、家計急変奨学金として
計17件支給

●将来に備えての積立

- ・大学厚生棟のため
- ・聖学院みどり幼稚園園舎のため
- ・女子聖学院中高体育館のため
- ・聖学院中高体育館・中学棟校舎のため
- ・聖学院小学校体育館のため
- ・各校奨学金基金のため

2020年度 寄付者から寄せられた メッセージ

未来ある生徒たちへ、聖学院の発展をお祈り致します。

在校生の方は必ず卒業して頂きたいなと思います。皆さん本当に大変だと思いますが、踏ん張って道を切り開いてください。

お世話になった大学の学生が、このコロナ禍を乗り越え学び続けてくれることを願います。

コロナ禍で研修旅行や体験学習・部活動など様々な困難にある中、オンライン授業を積極的に活用してくださっていることに感謝いたします。

これからも生徒一人ひとりの賜物を活かす教育を続けていただきたいと思います。

聖学院の教育がますますより良いものになるようお祈りしています。



生まれました。

糸魚川の森から

糸魚川産木製SDGsバッジ プレゼント

ASF*へのご寄付が年間合計1万円以上になると

聖学院オリジナルSDGsバッジが届きます

*ASF（オール聖学院フェローシップの略で、聖学院全体の後援組織）



聖学院中学校・高等学校では、都市と農村との交流事業として1986年から「糸魚川農村体験学習」を実施しています。このプロジェクトは学校、ひすい農協、糸魚川市、そして市内の受入家庭が連携して取り組んでいます。

生徒たちは農業体験だけでなく、農家の

ご協力のもと二泊三日の宿泊をさせていただきます。農村での暮らしを体験することで、食料自給率の問題や環境問題、経済の在り方に关心を深めます。体験学習が終わった後も糸魚川市と交流を持ち、独自のプロジェクトを立ち上げる生徒もいるほど、生徒の心に残る学びです。

農村体験の中では、植林体験も行っています。このたび、ぬながわ森林組合の協力を得て、糸魚川市で育った木材を使用したSDGsバッジが完成しました。SDGs達成への祈りを込めた聖学院の学びと挑戦は、これからも続きます。

【お問い合わせ】学校法人聖学院 広報センター TEL 03-3917-8530 pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

【ご注意】対象期間中1会員あたり1度に限りプレゼントをお贈りします／「個人」として寄付された方がプレゼントの対象となります

リニューアルしました。

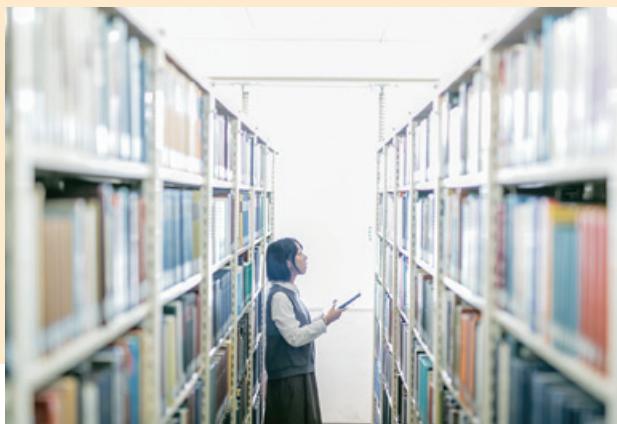
ASF NEWS

ALL SEIGAKUIN FELLOWSHIP NEWS

RENEWAL

& Seig

#あなたと。



ご寄付くださったみなさまには
年4回の学院広報誌をお送りします

ASF（オール聖学院フェローシップ）募金（詳細は同封の「募金要項」をご参照ください）にご協力いただいた方には、年間4回ニュースレターが届きます。ぜひお手に取ってご覧ください。



卷頭特別座談会
卒業生インタビュー
聖学院の歴史
教育最新情報
聖学院グッズ紹介

学院広報誌
ASFニュース

学院広報誌
ニュースレター

学院広報誌
ニュースレター

学院広報誌
ニュースレター

6月

9月

12月

3月

学院広報誌に関するお問い合わせ先 【聖学院 広報センター】TEL 03-3917-8530 pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

まだまだあります！

Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学



コロナ禍での偏見や差別をなくそう 「シトラスリボンプロジェクト リボン製作会」

5月17日（月）、シトラスリボンプロジェクトinさいたまと連携し、リボン製作会を開催しました。このプロジェクトは愛媛の有志がつくったもので、3つの輪を結ぶリボンは「地域・家庭・職場（学校）」を表し、コロナ禍で生まれた差別、偏見を乗り越え一人ひとりが安心して暮らせる社会を実現したいという願いが込められています。講師には上尾市でボランティア活動を推進する市川富代子氏と安藤由美氏を迎え、学生・職員約20名がリボンを製作しました。プロジェクトの趣旨説明を通して、コロナ禍にあって感染症に関連して起こる差別や偏見を乗り越えることの大切さを学んだ後、3つの輪を丁寧に結んでいきました。完成したリボンは身につけたり、贈りあったり、SNSでシェアすることで偏見のない社会への願いを広げていきます。



学校法人聖学院

『聖学院ビジョン年次報告書2020』発行

学校法人聖学院は2018年に「聖学院ビジョン」を策定しました。2018年度から2023年度までの5年間を第一期中期経営計画とし、経営6分野、教育7分野を柱にビジョンと計画を示しています。毎年1年間の活動や課題、達成度を振り返り次年度の運営に活かすと共に、関係者への情報公開として報告書を発行しています。法人ウェブサイト (https://www.seig.ac.jp/report/vision_report/) もしくは右下QRコードからご覧いただけます。



聖学院大学

2020年度入学生のための入学式 「Welcome Day」を開催しました

2021年3月30日（火）、コロナ禍のため中止となった入学式に代わり、2020年度入学生（2年生）へ向け、本学への入学を改めて歓迎するための節目の行事「Welcome Day」を開催いたしました。感染対策を徹底し、対面とライブ配信のハイブリッドで全体プログラムを礼拝形式で行い、その後学科別のプログラムが持たれました。礼拝ではチャプレンのメッセージや、在学生から2年生へ向けた歓迎の言葉が述べられました。また礼拝後は2年生へ向けて、学長講話の時間が持たれました。



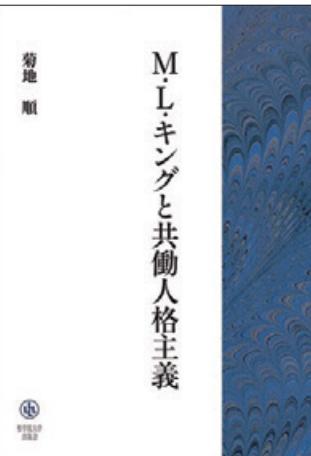
※学校法人聖学院はグローバル・コンパクトに署名・加入し、SDGsを目指した活動を行っています。

20 SDGs…2030年までの実現をめざし掲げられた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」



新刊紹介 『M・L・キングと共働人格主義』

菊地順（本学院キリスト教センター所長）による『M・L・キングと共働人格主義』が3月に発刊されました。黒人バプテスト教会の牧師マーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、アメリカ公民権運動の有力な指導者として公民権法の成立に大きな影響を与えただけではなく、黒人の意識を変革し、アメリカ市民としての自覚と誇りを高めました。その運動は非暴力の精神に貫かれた直接大衆行動を特色としました。本書では、その背後には深く知性に裏打ちされたキリスト教信仰とそれに基づく人格主義の精神があり、その行動の中核には、キングが人格神として捉える神と人間との「共働」という本質的な生き方があったと述べられています。



今年度より一人1台 iPad授与式を開催

今年度より中学の3学年では一人1台iPadを持ち、学内・家庭での学習活動に活用していきます。5月12日（水）には中1生にiPadを授与する授与式を開催しました。授与式には中1学年の先生方、および探究・ICT委員長の川村先生が立ち合いました。そして、生徒たちが責任をもってiPadを管理していくためのガイドラインとして探究・ICT委員会、および学年の先生方によって作成された「iPad利用における約束」の読み合せを行い、生徒たちの意識を高めました。



「家族への感謝」をテーマに 母の日礼拝

中1の生徒が5月19日（水）4時限目の時間に講堂で母の日礼拝を行いました。母の日礼拝は聖学院中高が大切にしている学校行事の一つです。中1の生徒全員が「家族への感謝」をテーマに作文を書きます。各クラスの代表者1名、合計5名の生徒が礼拝の中で壇上に上がり朗読をしました。生徒たちは家族に対して普段口に出して言えない思いや、感謝の気持ちを伝えてくれました。例年は保護者の方にも礼拝にご参加いただいているですが、今年度は感染症対策のためYouTubeでのライブ配信となりました。



Seig NEWS

聖学院幼稚園



母の日礼拝

5月10日（月）に、それぞれのクラスで、母の日礼拝を守りました。礼拝では、大好きなお母さんを思いながら、讃美歌を歌いました。お帰りのとき、お母さんのために心を込めて作った世界に一つだけのプレゼントを、「いつもありがとうございます！」と渡すことができました。早く渡したくて嬉しさ溢れる子どもたちと、プレゼントをもらったお母様方の笑顔で、幸せいっぱいの一日となりました。



聖学院みどり幼稚園



サツマイモの苗植え

みどり幼稚園では昨年取得した幼稚園の隣接地を整備し、サツマイモ畑にしました。5月14日（金）には年長さんが、5月17日（月）には年中さんがサツマイモの苗を植えました。これまでも、土の感触に親しみ収穫する喜びを知る目的で、近隣の農家まで足を運び、サツマイモの芋ほりを秋の行事として行ってきました。今年は幼稚園の畑で、子どもたち自身の手で育てるところからやってみることにしました。子どもたちはみんなでサツマイモの育て方をしっかりと学び、毎日水やりもして、サツマイモの成長を見守っています。子どもたちはみんな秋の収穫を今からとても楽しみにしています。サツマイモの成長を通して「育てることの大変さと大切さ」を学ぶ子どもたち。みどり幼稚園ではそんな子どもたち一人ひとりの成長を温かく見守っていきたいと思っています。



YANAGISAWA SAXOPHONES



ヤナギサワがおくる、
リガチャーの新たなステージ。



ユニークな構造・素材により、確かな吹き心地と芯のある豊かな鳴り、色彩豊かな音色を生み出します。



Yany SIXS(ヤニー・シクス)
リガチャー & キャップ Set

S.Sax.用、A.Sax./B[♭]Cl.兼用、T.Sax./A.Cl.兼用、B.Sax.
リガチャー：エボナイト製マウスピース用、プラス製(金メッキ仕上)



ヤナギサワ サクソフォーン SDGsへの取り組み

(柳澤管楽器株式会社)

未来のために…



Yany SIXS
Paper infused Cap



Yany SIXSの新しい専用キャップは、環境に配慮し、新素材「マプカ®(エコバイオプラスチック紙複合材料)」を採用しています。

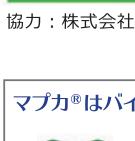
マプカ®は、新素材の紙パウダーを51%・ポリプロピレンを49%配合した、紙を主原料とした環境対応型成形用新素材です。

プラスチックを主原料とする製品は世界中で汎用的に消費され、工業用から家庭用まで、数多くの種類が存在します。一方で、世界的に環境問題への関心が高まるなか、その環境性能を疑問視・問題視する声も少なくありません。その問題をクリアにするべく、プラスチック原料に微細な紙パウダーを混成させた新素材がMAPKA®です。MAPKA®の主原料はあくまで「紙」。世界でも類を見ない、MADE IN JAPANの新素材として“ポストプラスチック原料”と呼ばれるほどに注目されています。

環境に配慮した新素材「マプカ®(MAPKA®)」採用の専用キャップ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向け世
界が合意した
「持続可能な開発目標」です



協力：株式会社環境経営総合研究所

マプカ®はバイオスマート(紙50%配合)を取得。生物由来の資源(バイオマス)を利用して、品質及び安全性が関連法規、基準、規格等に合っている製品です。安全で循環型社会の形成に貢献し、地球温暖化防止に役立っています。



SDGsに貢献。未来のために、できることから…

SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略称で、2015年の国連サミットで採択。国連加盟193ヶ国が、2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた、持続可能でより良い世界を目指すための国際社会共通の目標です。Yany SIXS専用キャップに採用した素材マプカ®(MAPKA®)は、SDGsで定められた17の目標のうち、7つの目標に貢献しています。

製造元
柳澤管楽器株式会社
<http://www.yanagisawasax.co.jp/>

発売元
株式会社プリマ楽器
〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-1-8
Tel. 03-3866-2215 / 03-3866-2210
<http://www.prima-gakki.co.jp/>

未来に進むために、必要なもの。

時代のうねりに流されないように、進むべき道を切り拓いていくように

戸田建設グループは、新たにグローバルビジョンを策定しました。

2021年の創業140周年と、その先の未来に進む

私たちの、これから指針です。



TODA Group Global Vision

“喜び”を実現する企業グループ

お客様の満足のために

私たちは、確かな技術力と
多彩な人財力で、お客様との最良の
パートナーシップをつくります。

誇りある仕事のために

私たちは、社員をはじめ現場に携わる
一人ひとりが、強い責任感と情熱をもって
仕事に取り組める職場をつくります。

人と地球の未来のために

私たちは、時代の変化と社会の課題に
真摯に向き合い、環境に配慮した
安心・安全な社会をつくります。



www.toda.co.jp

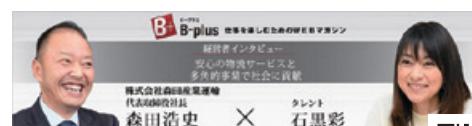
すべては挑戦から。

Everything is from a challenge.



 株式会社 森田産業運輸

東京本社 〒123-0872 東京都足立区江北3-3-22 森田産業ビル 2F
TEL03-3890-6666(代) FAX03-3854-3333
埼玉営業所 〒334-0001 埼玉県川口市桜町1-11-37
TEL048-281-5533 FAX048-281-3444
川口センター 〒334-0062 埼玉県川口市榛松 242
TEL048-282-8889 FAX048-282-8890



仕事を楽しむための WEB マガジンに掲載





上品、シンプル、
スタイリッシュなデザイン

ポスター／チラシ・DM／ロゴ／web／
UI／パッケージ 他

株式会社 キュー・ジー

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-1 203
phone : 03-5341-4179 <http://qgp.co.jp>

庭師の技が冴えるガーデン

<http://www.obazouen.co.jp>



当社に伝わる伝統・技術・技能を社員一人一人が発揮し
よりよい仕事をより安くお客様にお届けいたします

株式会社 大場造園

〒168-0064 東京都杉並区永福2-47-12

TEL 03-3321-8688 FAX 03-3325-5329

ISO9001・2015認証取得



PILOT専門進学塾 羽田空港校

毎年日本の空にエアラインパイロットを誕生させる塾です

羽田空港第1旅客ターミナルビル5階に開業

現役パイロットに囲まれながら夢を実現する

全国からオンライン受講可能！約半数が通塾圏外

お問い合わせは 公式サイトから

<https://pilotjyuku.jp>



〒144-0041 大田区羽田空港3-3-2 第1旅客ターミナルビル5階
THE HANEDA HOUSE REGUS 505
担当：富村英朗(聖学院91回)・伊藤大和(聖学院105回)

ひとつまみの幸せ。

なとり

贅沢なひとときを……

一度は食べていただきたいシリーズ

一度は食べて
いただきたい
燻製チーズ

Smoked, low-salt cheese
熟成されたチーズの風味とモチモチやわらかさ
食感が楽しめるチーズです。

りんご風味
燻製

一度は食べて
いただきたい
おいしいサラミ

Smoked sausages with a rich aroma of spices
燻製マスターの手作り香料と、スペイン産
セレクションのソーセージを挽いてから燻製です。

13種の
スパイスの
香り

株式会社 **なとり** 東京都北区王子5-5-1
www.natori.co.jp

住宅設備と空調を通して、
お客様との『信用』を
しっかりと積み重ねてまいります。



おかげさまで設立50年

IZU 伊豆商事株式会社

空調・住宅設備総合商社

〒130-0023 東京都墨田区立川3-4-6

e-mail: izu_info@izus.co.jp

Web: http://www.izus.co.jp/

営業所案内

東京営業部(首都圏G・城東・大塚・調布)
埼玉(草加)・千葉・市原・佐原

聖学院大学教育支援会議 幹事

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フィルム ビジネス イノベーション株式会社

富士フィルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

埼玉支社

〒330-6028 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

fujifilm.com/fb/company/fbj

Coca-Cola®

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 <https://www.ccbji.co.jp>
COCA-COLA EAST JAPAN Co., Ltd. (コカ・コーラ指定会社) Coca-ColaはThe Coca-Cola Companyの登録商標です。

練習生募集中!!

※キャンペーン中につき、詳細はお電話でお問い合わせください。

プロ・アマチュアボクサー志望、プロライセンス取得、体力作り・健康維持、ダイエット・シェイプアップ、ストレス・運動不足解消…あなたの目的にあったトレーニングができます！

女性ひとりでも安心☆ 気軽にエクササイズ♪



聖学院を応援しています

金子ジムの金子兄弟は聖学院中学高等学校の卒業生
会長の健太郎(右)は73回生、マネージャーの賢司(左)は76回生
中央は元世界スーパーフライ級チャンピオン清水智信(現福井県議会議員)



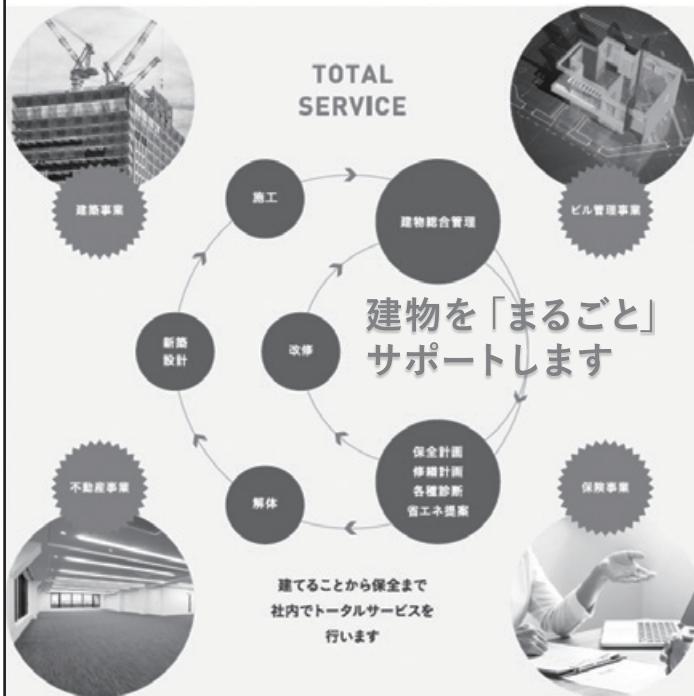
金子ボクシングジム
KANEKO PROMOTION CO.,LTD. KANEKO BOXING GYM

住所／東京都世田谷区北沢1-45-23

電話／03-3460-8353



戸田建設グループ



戸田ビルパートナーズ株式会社

TEL:03-3527-8211

東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館5階

想いをカタチに
するパートナー。

advertising agency

SAITAMA SHINBUN
JIGYOSHA CO.,LTD



私たちは、「現場力」と「提案力」にこだわり、
お客様に「安全・安心」と「快適」を提供してまいります。
そして、お客様が働き、学び、集い、住まう建物の
身近にあって、最良のパートナーであり続ける事を
を目指します。

あしたを、つなぐ — 野村不動産グループ

野村不動産パートナーズ

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

新宿野村ビル8階

教育施設事業一部 TEL 03(3345)0672

<http://www.nomura-pt.co.jp>

通信コスト削減、業界初の
回線管理業務コンサルティングシステム

「回線秘書」

特許第4868263号

豊富な経験と実績、高い技術力で
トータルにサポート

ナースコール 電話設備 ネットワーク
監視カメラ 施工 保守 コンサルテーション



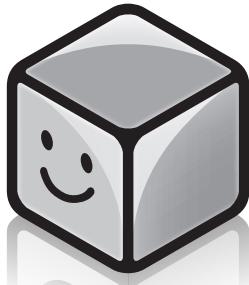
情報と通信の
電通工業株式会社

〒140-0011 東京都品川区東大井5-11-2

TEL. 03-5479-3711 (大代表)

<http://www.dentsu.ne.jp/>

皆さんに笑顔と豊かさをお届けする
“グッドスマイルメディア”
を目指して



つくる、
つなぐ、
かなえる

Good Smile Media

総合印刷・マルチメディア・オンデマンド印刷・広告代理業

望月印刷株式会社

〒338-0007 さいたま市中央区円阿弥 5-8-36 TEL.048-840-2112

PCNET

情シスのお困りごとは
すべて私たちにお任せください
ご面倒な IT 機器の管理業務を大幅に軽減いたします



<https://www.prins.co.jp>

株式会社パシフィックネット

(東証二部上場 証券コード : 3021)

本社：東京都港区芝 5-20-14 三田鈴木ビル 6 階

☎ 03-5730-1441 営業時間 9:00~17:45 (月~金)
(祝日除く)



IS 506516 / ISO 27001
EJ 506864 / ISO 14001
(本社・東京TC)



ヤマト通商有限会社

〒173-0004 東京都板橋区板橋三丁目 13 番 15 号
Tel 03-3964-8401 Fax 03-3579-7517
E-mail yamatsu@crux.ocn.ne.jp

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになつて、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

- 学校用品
- スチール・木製家具
- 各種特別教室
- 黒板・スクリーン
- 室内装飾
- OA事務機器
- 視聴覚設備
- 図書館設備



〒112-0015
東京都文京区目白台 3-26-8
TEL : 03 (3941) 7258
FAX : 03 (3943) 3826

有限会社 香山壽夫建築研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷2-12-10
TEL 03-3815-4702 FAX 03-3815-6434
<http://kohyama-a.co.jp/>

「温かくおいしく安全な給食を」

株式会社アイコーメディカル

〒485-0803 愛知県小牧市高根1-200 TEL 0568-78-0966
<http://www.aiko-medical.co.jp>

株式会社東京アドエージェンシー

〒106-0032 東京都港区六本木7丁目15番7号 新六本木ビル4F
TEL 03-5771-6817 FAX 03-5771-6829
<https://www.tokyoad-ag.co.jp/>

廃棄物を生かす力—白井グループ

白井エコセンター株式会社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目10番14号 ばんだいビル3階
TEL 03-3897-1327 FAX 03-3857-0237
<https://www.shirai-g.co.jp>

有限会社日東クリーンベスト

〒114-0002 東京都北区王子5-23-16-101
TEL 03-5390-2310 FAX 03-5390-2309

日勝スポーツ工業株式会社

〒154-0005 東京都世田谷区三宿2-36-9
TEL 03-6805-2106 FAX 03-3410-7314
<http://www.nissho-sports.com/>

株式会社防災整美

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町6-5岩清日本橋ビル7F
TEL 03-5695-1781 FAX 03-5695-1785

室 内 装 飾

株式会社 フタバ アイディ

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1丁目22番5号
TEL 03-3809-5505 FAX 03-3893-9530

聖学院小学校 女子聖学院 制服指定店

株式会社ヨシザワ

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-15 八重洲通ビルディング 9F
TEL 03-3271-4996 FAX 03-3281-8331
<http://www.yoshizawa-uni.co.jp>

ASF関連冊子広告掲載にあたってのご案内

広告掲載を募集しております。詳細はお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

学校法人 聖学院 広報センター

〒114-8574 東京都北区中里2-9-5
Tel 03-3917-8530 Fax 03-5907-7034 E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

pure Hawaiian WATER

Pure Hawaiian Water 320mL PET Bottle

Bottled in Hawaii
TOELL U.S.A. Nimitz Factory



Pure Hawaiian Water starts as rain filtered through porous volcanic rock for 25 years, collecting in natural Artesian aquifer 200 meters deep within the Ko'olau Mountains. From this pristine source, Pure Hawaiian Water is born.

Toell USA delivers safe and pure water to you that is filtered through reverse osmosis. Enjoy the clear and smooth taste of Pure Hawaiian Water.



0120-15-7777

株式会社トーエル 東証一部 3361 www.toell.co.jp



Pure Hawaiian
320mLペットボトル
ご購入はこちらから



EPISODE #13

聖学院歴史探訪

#13 聖学院教育の歴史
-建学の精神・下-



「聖学院精神とは何か？ その名の如く『聖』である。聖とは眞、善、美三者の和であり、極致である。……聖学院精神の基礎をなすものはキリスト教精神である。キリスト教精神とは何かというと、敬神、奉仕であり、十字架の精神である。キリスト教精神を除外して聖学院精神はない。キリスト教精神を失った聖学院は塩がその味を失ったと同様にもはや存在の価値はないのである」。

小田信人は右 [上述] の平井庸吉の文章に言及したあと、聖学院校歌はこの聖学院精神をよく表現していると言って、その第三節を引用しています。

「ここにて学ぶ 真・善・美を／ひとつの聖に すべくくりて／神と人とに ささげつくす／これぞ我等の 尊き使命／聖学院 聖学院 聖学院」

右の聖学院の校歌と同時に制定された「女子聖学院の歌」にも「神を仰ぎ、人に仕う」という一句があります。本章の冒頭に、建学の精神は徹頭徹尾キリスト教精神であり、それはキリストの弟子としての生き方で、神信仰と人への奉仕の使命であるといいましたのも、以上のような私たちの先人の把握に基づいているのです。

(次号に続く)

出典：聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラル・サービス、2006年版より抜粋

理事長／清水 正之 院長／山口 博
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-8351
ホームページ <https://www.seig.ac.jp/> E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学

・政治経済学部／政治経済学科
・人文学部／歐米文化学科 日本文化学科 児童学科
・心理福祉学部／心理福祉学科
学長／清水 正之 創立／1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院

政治政策学研究科／文化総合学研究科／心理福祉学研究科
創立／1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園

園長／赤田 直樹 創立／1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校

校長／伊藤 大輔 創立／1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校

校長／山口 博 創立／1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

聖学院小学校

校長／佐藤 慎 創立／1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園

園長／田村 一秋 創立／1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて
クレジットカード (VISA, MasterCard) をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

<https://www.seig.ac.jp/asf/>



住所変更・広報誌の発送停止・お問い合わせ

<https://www.seig.ac.jp/asf/contact/>

学校法人聖学院ASF事務局

Tel 03-3917-8530 (月～金 9:00～17:30)

